

Life in USA

国際文化学科 横山 知佳

私がアメリカ留学を決めた理由は大きく分けて二つありました。一つは、小さいころから海外にあこがれ、様々な国の人と交流し異文化に触れたいと思っていたからです。私は以前、韓国とシンガポールへのホームステイの経験がありました。しかし、当時の私は全くと言っていいほど英語を話すことができず、言葉の壁を感じました。この経験から、英語を不自由なく使えるようになりたいと思ったことが二つ目の理由です。これらの理由から、私はアメリカ留学を決意し、4か月とうい短い期間を無駄にしないように、出発前から英語に触れる機会を増やしていきました。

出発当日、これから始まるアメリカでの生活に期待を寄せながら日本を出国しました。しかし、天候や気圧の関係で不安定なフライトが続き、飛行機が少し遅れていたことで、次第に不安な気持ちが大きくなりました。その後、カンザスの空港へ着いたときには、少し疲れも感じていましたが、無事到着できたことと、これから本当にここで生活していくというワクワクした気持ちでいっぱいでした。

BEARCATS と大きく書かれたバスに案内され、学校へと向かいました。私たちを案内してくれたブリンダがリンゴを丸かじりしながら誘導してくれたことに、とても驚きました。このことは、今でも覚えているアメリカを感じた瞬間の一つです。時間が遅かったため、学校までの道中にあるマクドナルドで夕食を食べました。アメリカでの初めての食事だったため、すべてが新鮮でたくさん写真を撮ってはしゃいでいたこと覚えています。夕食を食べ終えたころには、外はすでに暗くなっていました。学校へ着いたのは、夜の 11 時頃でした。先に **South Complex** という寮に到着し、大半の日本人と先生がここで降りてしまい、**Franken** が寮の私たち 8 人と他の国から来た留学生だけになりました。**South Complex** を出たすぐにバスが何かにつつかり、私の座っていた席の窓下がへこんでしまうというハプニングがありましたが、寮には無事に到着しました。その後、部屋の鍵を渡され少し説明があった後部屋に案内されました。正直のところ、この時点では相手の言っていることの半分以上が聞き取れず、混乱していました。なんとか部屋に到着し、次の日に備えて早く寝ようと思っていたところ、部屋にあると言われていた布団類やタオルがないことに気づきました。すぐに、近くにいた人に聞きに行きましたが、言葉がつまり、うまく伝わりませんでした。私たちは寮の一階にある、カウンターへ行き、つたない英語で状況を説明したところ、なんとか理解してもらいました。しかし、「ないなら今から買いに行こう！」と言われてしまい、英語で説明することの大変さを感じました。その後、もう片方の寮の人たちと連絡が取ってもらったり、**South** まで案内してもらったり、布団類を探してもらったり、大変親切にしてもらい、現地の学生の優しさに触れることができました。この時、お世話になった人たちには、その後の 4 か月間を通して困った時などの、頼れる存在としてお世話になりました。アメリカ初日は、慌ただしくハプニング続きでしたが、とても印象

に残るいい経験になりました。

次の日からは、数日間のオリエンテーションが行われ、ラップトップの受け取りやクラス分けテスト、またとても広い学校内をゲーム形式で探検したりしました。私は、着いてから一週間以上、時差ボケが抜けずにとっても苦労しました。授業が始まってからも、授業が15時に終わり寮に帰るとすぐに寝てしまう生活が続いてしまい、いくつかイベントに参加できなかったことを少し公開しています。授業は、**TOEIC Class, Reading/Writing Class, speaking/Listening Class, Grammar Class** と最初の2か月だけ **Culture Class** の5つがありました。行く前に、先輩方から授業が難しい、宿題がたくさん出るから大変だ、と言われていたので、少し不安でした。ですが、授業が始まるころには、だいぶ耳も慣れ、先生の言っていることが聞き取れ、難しいことは言っていないと気づき、不安もすぐなくなりました。ほとんど毎回の授業で単語テストがあり、そのおかげで分からない単語や授業での **topic** を見失うこともなかったように感じます。私が一番大変だと感じた宿題は、**Speaking/Listening Class** で出された“**Stranger**”に話しかけるという宿題です。自分の英語に自信がなかったので、知らない人に自分から話しかけに行くことにはすごく抵抗がありました。しかしこの宿題のおかげで少し自信がつき、それ以降さまざまな国の人と話すきっかけにもなったと思っています。授業で、私が一番苦労したことは、**Reading/writing Class** での **essay** です。教科書を一章進むごとに、それぞれの内容に合わせた **essay** を書いていました。教科書の内容に合わせつつ、自分の意見や経験を書いていく形のもので、一枚書き終えるのに、3度ほど添削が入り書き直し、完成させていかなければいけませんでした。「書く英語」は「話す英語」と異なり、きちんとした文法で流れに沿って書くことが必要なので、とても苦労したのを覚えています。また、**essay** と同時に **Article report** の宿題があるときは **paper homework** が重なり夜遅くまで苦戦したり、クラスの友達やネイティブの友達に聞きに行ったりしたこともありました。その甲斐あって、留学前は苦手だった長文が得意になり、宿題の点数も満点に近づいていきました。授業は大変なことばかりではなく、ゲーム形式で問題を出し合うなど、楽しみながら学ぶことができました。また、**ESL** のみんなで **field trip** で **Omaha Zoo** や **Museum** に行きました。**Field trip** では、普段クラスの違う子や、**ESL** 以外の学生と一緒にいくため、新しく仲良くなれる友達や、クラスが同じ友達とはさらに仲が深まるなど、とても楽しい思い出になりました。**Zoo** や **Museum** だけでなく近くのショッピングモールなどで買い物する時間もあったので、お土産を買ったり、自分用に服を買ったり、充実した時間を過ごしました。また、週に2回授業後に、**conversation** がありネイティブの学生と話す時間がありました。私の担当をしてくれたのは、**Mallory** という一個上の女の子でした。**Mallory** はとても気さくで英語がでてこない私



Mallory と Easter egg 作り

たちに、トランプやボードゲームをすることで英語に慣れさせてくれたり、飼っている猫を連れてきて気分転換させてくれたり、イースターエッグを作ったりしました。

授業以外では、学校内で毎週たくさんのイベントが行われており、学生が主催して行っているものや、私たちのような **international student** に向けたイベントなどがありました。毎週 **Activity Report** を提出しなければいけないこともあり、私たちはたくさんのイベントに参加しました。**BBQ** や **color party**, **ice party**, **treasure hunting** などほとんど毎週パーティのような状況でした。授業が始まってすぐにあったイベントでは、大きいバルーンの滑り台や、**race** ができるアトラクションのようなものがありました。私は同じクラスの友達とその会場で友達になったネパールの友達と一緒に遊び、全然英語が話せない私にたくさん話しかけてくれて、仲良くなれたのでとても嬉しかったです。また、**Halloween** の時には、街は仮装した子どもで溢れており、それぞれのお店も全て **Halloween** 仕様になっていて、日本では見ることのできない本場の **Halloween** を経験できました。別の日には **ESL** のみんなで仮装してパーティをしたこともいい思い出です。また、その時期には、学校の



Halloween Party

周りで **Haunted House** がたくさん行われていました。私は街にあった子供向けのものと、学校内にある寮を丸々一個使ったものに行きました。寮のほうは、夜遅くにしかやっておらず、怖そうだなと思いながらも行きました。一日目は、とても人気で待っている人が溢れているから入れないと言われてしまったため、二日目は早い時間から行きました。ロビーで順番を待っていると、お化け役の人の休憩時間になり、たくさんの仮装した人たちがロビーに降りてきて、軽食を食べて休憩する人や、待っている私たち話しかけに来てくれる人もいて、とても気さくな雰囲気でした。その後に、私たちの順番が来て中に入りましたが、瞬間的な驚きなどはあっても全体を通して楽しく笑っていた気がします。その他にも **football** や **basketball** の試合観戦にもいきました。私は日本でも、スポーツ観戦に行ったことがなかったので、生で見る迫力満点の試合はとても印象的でした。また、スポーツの試合があるときにはマーチングバンドやチアリーディングの人が必ずいて、ハーフタイムなどにパフォーマンスがあったので、飽きずに観ることができました。

留学生活も半分を過ぎ、帰国を意識し始めた頃、アメリカでは **Thanksgiving** という位週間ほどの

周りで **Haunted House** がたくさん行われていました。私は街にあった子供向けのものと、学校内にある寮を丸々一個使ったものに行きました。寮のほうは、夜遅くにしかやっておらず、怖そうだなと思いながらも行きました。一日目は、とても人気で待っている人が溢れているから入れないと言われてしまったため、二日目は早い時間から行きました。ロビーで順番を待っていると、お化け役の人の休憩時間になり、たくさんの仮装した人たちがロビーに降りてき



スポーツ観戦

Holiday がありました。この期間は学校も寮もすべて閉まり、学生は家に帰る人がほとんどです。その期間に私たちはホームステイをしました。私は FIS family のお家でお世話になりました。家族はお父さん、お母さん、二人の姉妹と犬が一匹と猫が二匹いる家族でした。まず初めに私が驚いたことは、お母さんに、「ここはあなたの家だから好きなように楽しんでいいのよ」と言われたことです。私たちのことを、家族同然に受け入れてくれていることに、驚きと同時に少し感動しました。時期がクリスマス前だったこともあり、毎日家のどこかをデコレーションし、クリスマス映画をみんなでみました。Thanksgiving の前日からは隣の州にある親戚の家に泊まりにいきました。そこのお家は、とても広いコーン畑を持っている家族で、敷地内にはさまざまな設備や車などがあり、工場見学をしている気分になりました。夜ご飯のピザを買いに行った時には、お店が混んでいたため、近くにあるおばあちゃんの経営する託児所に遊びに行ったり、街を案内してもらったりしました。帰り道では、道路の真ん中に大きなシカがいて、ぶつかりそうになったこともありました。当日には、親戚の人がたくさん集まりそれぞれ持ってきた料理をみんなで、いただきました。その後、天候が悪化したため、私たちは早めに帰宅することになりました。帰り際には、親戚の女の子がブレスレットをくれたり、また会いにおいでと言ってもらったり、短い時間でしたが温かい優しさを感じました。その後、私たちの FIS family のお家に戻り、再びクリスマスの準備が始まりました。クリスマスの準備に関して一番印象的だったことは、tree farm に行って本物のクリスマスツリーをとってきたことです。朝早くに家を出て、車で1時間ほど走ったところに木を取りに行きました。これは日本では、絶対に体験できないことだと思います。私たちがお世話になった一週間は、毎日クリスマスモードでしたが、クリスマス本番にはすでに帰国しているということで、お母さんが少し早く私たちにクリスマス気分を味わわせてくれました。家族みんなでクリスマスクッキーやピザを作ったり、Gingerbread House を作ったりしました。短い期間でしたが、とても濃い一週間になりました。



Thanksgiving Day

この留学生活は、私が期待していた以上に充実し濃い4か月になりました。不安なときや大変だったときに支えてくれた一緒に行った仲間や、毎日楽しい授業をしてくれたり、日常生活のサポートをしてくれた先生方、全然英語が話せない私にたくさん話しかけ中食してくれた現地の友達には、感謝しきれません。また、留学前に様々なサポートをしてくれた国情の先生方や家族のサポートがあって、今回このような貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。この経験を、将来に生かせるようこれからも英語力の向上に向けた努力を続けていきたいと思います。